

「日本の貧困問題について考える」プロジェクト

現在、日本は「5人に1人が生活苦」とよばれる時代です。こうした背景には、社会保障制度の脆弱さ、周囲の無関心・誤解など、様々な要因があります。特に学生の間では、日本の貧困問題について具体的にイメージできないことが多く、問題意識が希薄となっています。こうした現状を踏まえて私たちは、学生が日本の貧困問題をより自分に身近なものとして捉え、かつ正しい認識を持つてもらえたなら、と考えました。

こうした思いから、私たちはプロジェクトを発足させました。そして、昨年12月19日（水）16:40から共通講義棟2号館102室にて、ドキュメンタリー映画「渋谷ブランニューデイズ」の上映会を主催し、ゲストに本作品の監督である遠藤大輔氏をお招きしました。

本企画を主催するにあたり、私たちは、上映映画の選定、宣伝ポスターのキャラフレーズ考案、授業内告知など、地道ではありますが着実に準備を行なってきました。そして、1つ1つの作業について、「どうすればより多くの学生に参加してもらえるか、そして貧困問題に关心を向けてもらえるか」を熟考するように心がけ、そこが特に苦労した点でもありました。また、映画監督との打ち合わせでは、学生ではなく企画主催者として、真剣に監督と交渉することができ、非常に貴重な経験となりました。その結果、本企画当日のアンケートでは参加した学生のみなさんから「有意義なイベントだった」「勉強になった」といった意見を多くいただくことができ、本企画の目的に一歩近づくことができたとともに、私たちも大きな達成感を得ることができました。

この自主企画プロジェクトは、普段の学生生活でのイベント企画とはまた違った経験ができる貴重な機会を与えてくれました。もしまた参加できる機会があれば、次回は集客力向上を含め、より多くの学生に私たちのメッセージを届けることを意識して企画をしていきたいと思います。是非、今後も多くの学生に自主企画プロジェクトに携わり、より実りある学生生活を送ってほしいと考えています。

